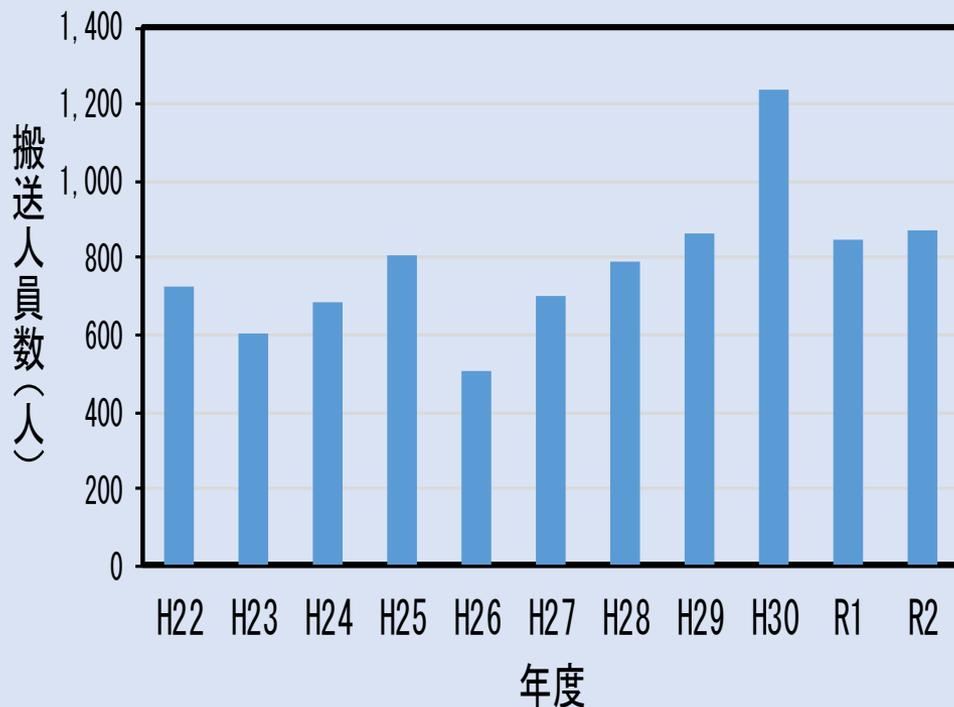
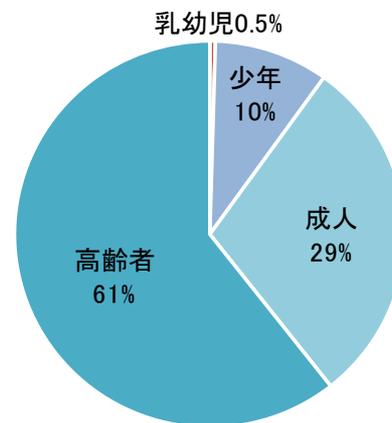


背景

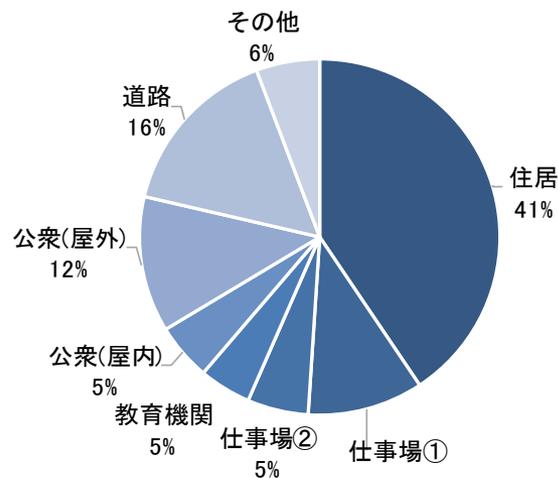
- ◆近年、愛媛県の熱中症搬送人員数は著しい増加傾向
- ◆年齢別には高齢者が最も多く、発生場所は住居が最も多い
- ◆搬送人員に占める少年の割合は、県内地域別（東予・中予・南予）に新居浜市、松山市、大洲市が多い
- ◆県民アンケートの結果、回答者の7割以上が熱中症の増加を実感し、不安に感じている



愛媛県の熱中症搬送人員数の推移



R2年 年齢区分別(構成比)



R2年 発生場所別(構成比)

背景

- ◆近年、**愛媛県の熱中症搬送人員数は著しい増加傾向**
- ◆年齢別には**高齢者が最も多く、発生場所は住居が最も多い**
- ◆搬送人員に占める**少年の割合は、県内地域別（東予・中予・南予）に新居浜市、松山市、大洲市が多い**
- ◆**県民アンケートの結果、回答者の7割以上が熱中症の増加を実感し、不安に感じている**

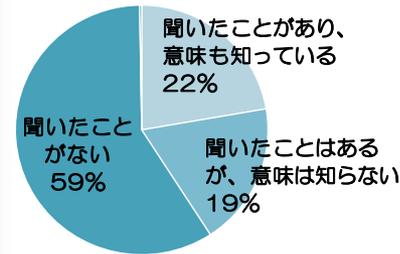
消防本部別の熱中症搬送人員数

地域	消防本部名	人口10万人当りの搬送人員数※1	搬送人員数に占める少年の割合(%)※2
東予	今治市消防本部	85	11
	新居浜市消防本部	42	20
	西条市消防本部	80	15
	四国中央市消防本部	76	10
	上島町消防本部	201	7
中予	松山市消防局	42	16
	伊予消防等事務組合消防本部	76	14
	東温市消防本部	116	7
	久万高原町消防本部	84	11
南予	宇和島地区広域事務組合消防本部	61	7
	八幡浜地区施設事務組合消防本部	86	8
	大洲地区広域消防事務組合消防本部	103	13
	西予市消防本部	76	6
	愛南町消防本部	89	2

※1 過去5年間（H27～R1）の搬送人員数を人口10万人当りに換算したもの
消防本部毎の人口（平成30年1月1日現在）は「令和元年度版消防年報 愛媛県消防防災安全課」から引用
※2 過去5年間（H27～R1）の搬送人員数のうち、少年（満7歳以上満18歳未満）の割合

県民アンケートから明らかになった課題

<適応策という言葉>



熱中症対策も含め
適応策の普及
啓発が課題

地域における適応策の普及促進に向けて

県民や企業等が自ら考え、行動するには、身近な地域の気温や降水量、暑さ指数、将来気候の予測データが不可欠

（有識者意見）

県民に身近な環境の暑さ指数を理解してもらうため、

様々な状況下での暑さ指数の実測調査